



数字で見るNISEKO

ニセコ町統計資料
2009年5月末版



目次

ニセコ町の概要	
ニセコ町民憲章、町の木・花・鳥、ニセコ町章	2
ニセコ町の位置	3
ニセコ町の気象概要	
平均気温の変化	3
日照時間(月平均)の変化	4
降雪量と最深積雪の変化	4
ニセコ町の自然・土地	
自然公園	5
主な山岳・河川	5
森林面積	5
地目別土地面積・総面積	6
地目別面積比率	6
ニセコ町の人口と産業構造	
年齢別男女人口	7
国勢調査人口の推移	7
外国人登録者数の推移	8
産業別就業人口の推移	8
産業別就業人口構成比率の推移	8
産業別就業人口	9
産業別就業人口比率	9
ニセコ町の農業	
農家数の推移	10
経営耕地規模別農家数	10
主要作物の作付面積・収穫量・農業産出額	11
ニセコ町の観光	
観光客入り込み状況	12
観光客入り込み数の推移	13
外国人宿泊客の状況	13
ニセコ町社会基盤	
水道施設・給水状況	14
下水道の普及状況	14
ごみ処理	15
ニセコ町の教育	
学校状況等	15
ニセコ町の教育・文化施設	16
ニセコ町の財政	17
ニセコ町のあゆみ ~ ニセコ年表 ~	18



ふるさと眺望点(豊里のダチョウ牧場)

ニセコ町の概要

「ニセコ町民憲章」(1973年11月3日制定)

私たちはニセコ町の自然を愛し、恵まれた大地で勤労と生産に励む日々を感謝しながら希望に満ちた生活につとめ、より豊かな未来をつくるために願いを込めてこの憲章を定めます。

- 一、自然を愛し住みよい環境をつくりましょう。
- 一、きまりを守り明るい社会をつくりましょう。
- 一、力をあわせ豊かな生産にはげみましょう。
- 一、健康で働き楽しい家庭をつくりましょう。
- 一、希望に生きるたくましい町民となりましょう。

「ニセコ町まちづくり基本条例」(平成12年12月27日制定)

この条例は、自治基本条例として全国で先駆けて制定され、ニセコのまちづくりを進める上で町民共通のルールであり、「まちの憲法」でもあります。

「情報共有」と「住民参加」を2本柱に、日本国憲法や地方自治法などの法の精神に基づき、町民がまちづくりの主役(主体)として行動するための権利を保障するものです。

【前文】

ニセコ町は、先人の労苦の中で歴史を刻み、町を愛する多くの人々の英知に支えられて今日を迎えています。わたしたち町民は、この美しく厳しい自然と相互扶助の中で培われた風土や人の心を守り、育て、「住むことが誇りに思えるまち」をめざします。

まちづくりは、町民一人ひとりが自ら考え、行動することによる「自治」が基本です。わたしたち町民は「情報共有」の実践により、この自治が実現できることを学びました。

わたしたち町民は、ここにニセコ町のまちづくりの理念を明らかにし、日々の暮らしの中でのよこびを実感できるまちをつくるため、この条例を制定します。

【町の木】



しらかば

(1979.4.4制定)

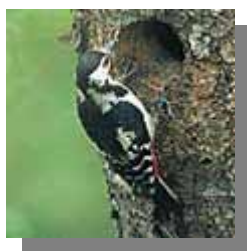
【町の花】



ラベンダー

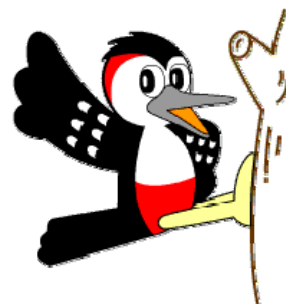
(1991.10.1制定)

【町の鳥】



アカゲラ

(1991.10.1制定)



ニセコ町イメージキャラクター

『ニッキー』(アカゲラ)

「ニセコ町章」(1968年5月15日制定)

町名の「ニセコ」を図案化したもので、「ニ」は雲を、「セ」は山を、「コ」は流れを意味し、それぞれ青雲の志、不動の姿、不断の努力を表す。総体的に丸形は平和と団結を、山頂と山裾は飛躍と発展を、内側の白い部分は清らかな心と雪を象徴する。



ニセコ町の位置

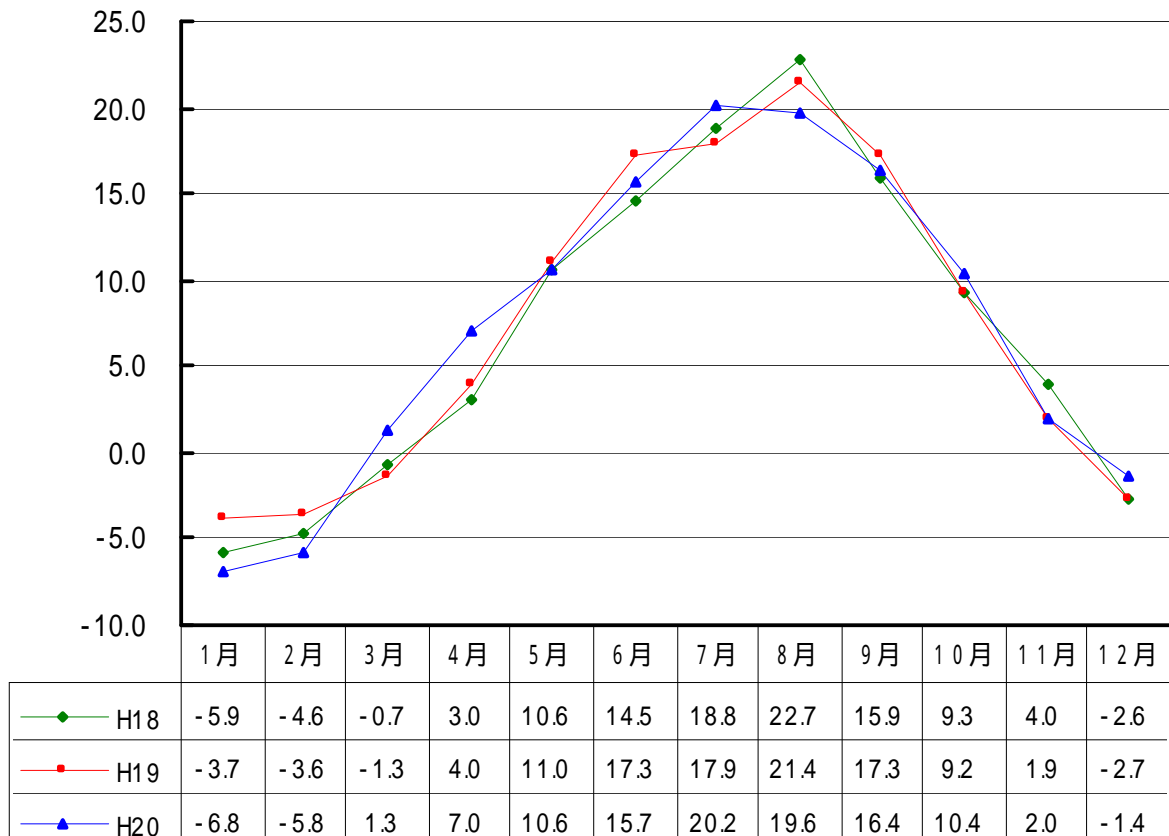


ニセコ町は、東経140°48' 北緯42°52'、道央の西部、後志管内のほぼ中央に位置し、山岳に囲まれた波状傾斜の多い丘陵盆地を形成している。このため内陸的気候を呈し、平均気温はおおよそ6.0 である。また、冬期の最深積雪は200cmにも達することがある。

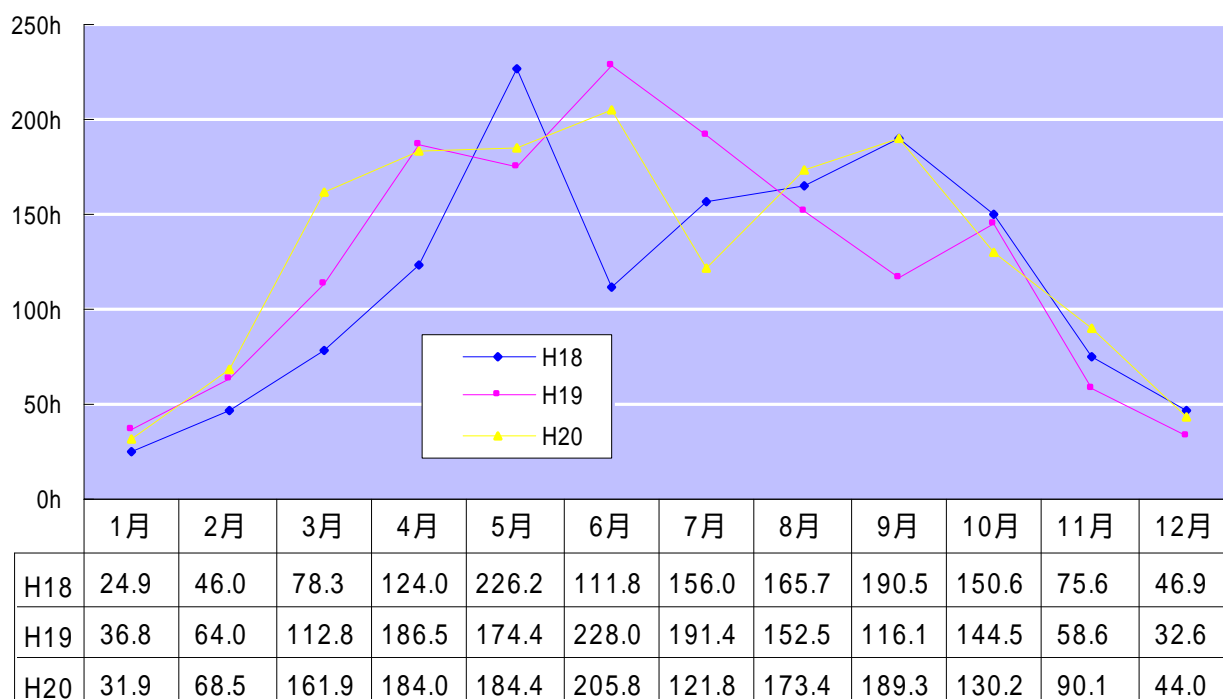


ニセコ町の気象概況

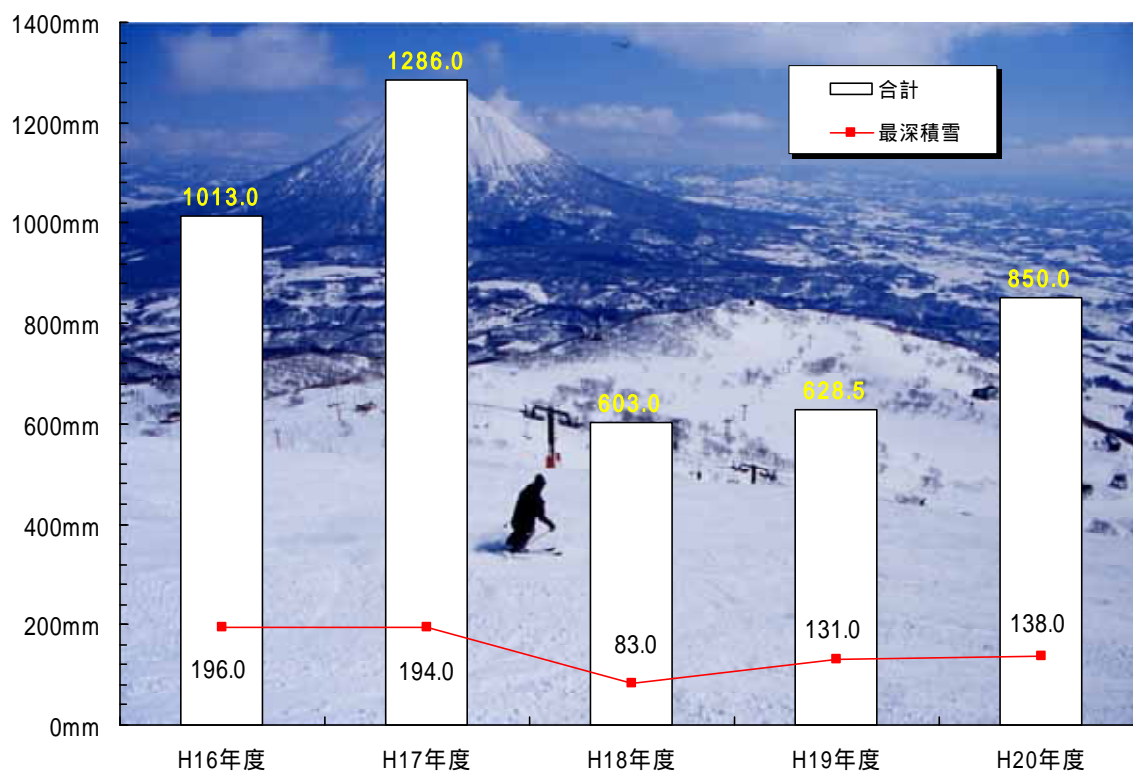
平均気温の変化 (倶知安測候所観測値)



日照時間(月平均)の変化 (倶知安測候所観測値)



降雪量と最深積雪の変化 (ニセコ町建設課調べ)



ニセコ町の自然・土地

自然公園（後志支庁環境生活課調べ）

支笏洞爺国立公園とニセコ積丹小樽海岸国定公園を合わせると、ニセコ町全体の約13.5%の面積を占めており、貴重な自然に恵まれた土地であることがわかる。

公 園	町内に占める面積	総面積
支 笏 洞 爺 国 立 公 園	1,374ha	99,302ha
ニセコ積丹小樽海岸 国 定 公 園	1,280ha	19,009ha

主な山岳・河川（国土地理院地形図）

ニセコアンヌプリ、昆布岳、そして「蝦夷富士」と呼ばれる羊蹄山に三方を囲まれている。そのほぼ中央を、北海道で6番目の流路延長を持つ尻別川が、真狩川や昆布川などの支流を集め、東西に流れている。

山 岳 名	標高(m)	河 川 名	延長(km)
羊 蹄 山	1,898	尻 別 川	125.7
ニセコアンヌプリ	1,308	真 狩 川	27.4
昆 布 岳	1,045	昆 布 川	24.4

森林面積（2006年北海道林業統計）

天然林が全体の約74%を占めている。

区 分	面積(ha)
人 工 林	2,723
天 然 林	9,778
無 立 木 地	467
そ の 他	266
樹 林 地 総 数	13,234

区 分	面積(ha)
町 有 林	563
国 有 林	0
道 有 林	6,015
そ の 他 民 有 林	6,656
樹 林 地 総 数	13,234

ニセコ野営場

ニセコアンヌプリとイワオヌプリに挟まれた、五色温泉そばにあり、登山や沼めぐりの拠点としても最適です。春から初夏に野山を彩るお花畑や、紅葉の名所からも近く、隣接する五色温泉の露天風呂を楽しむこともできます。

所在地 ニセコ五色温泉付近
 開設期間 6月上旬～10月中旬
 収容能力 100名
 料金 大人 300円
 小中学生 100円

地目別土地面積・総面積 (平成20年度固定資産概要調書)

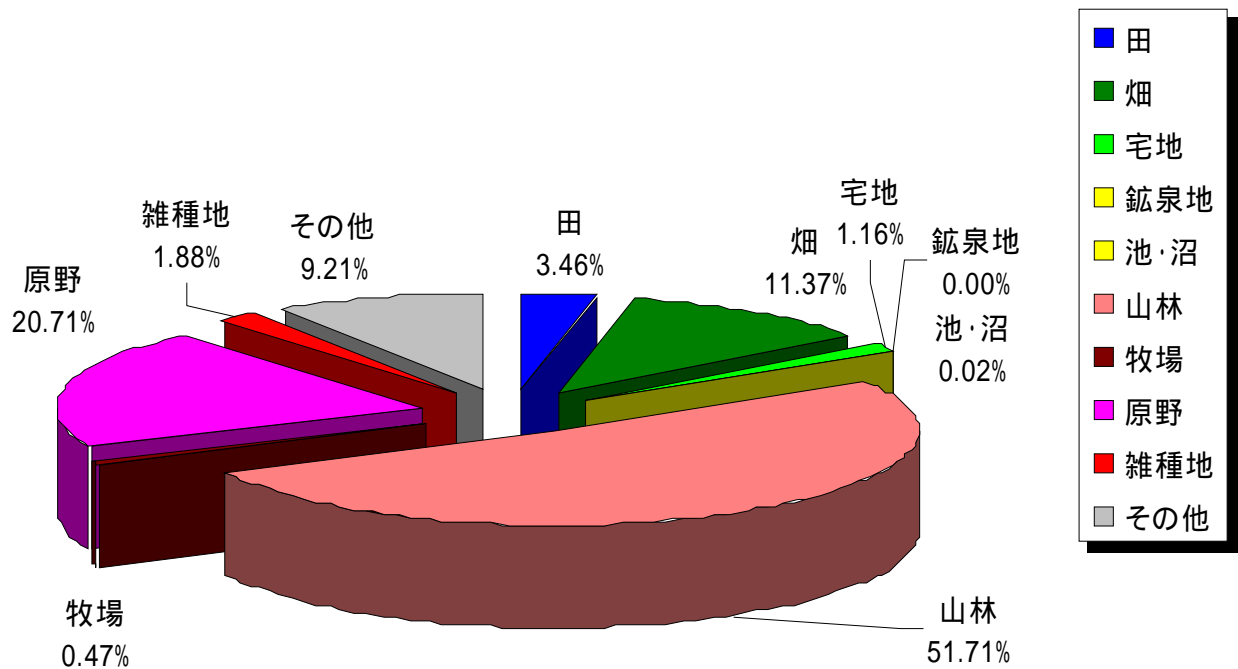
山林が全体の約半分を占め、次いで原野、畑の順である。

北海道全体と比較すると、特に山林が少なく、原野、その他が多い。その他には、墓地、境内、運河用地、水道用地、用悪水路、ため池、堤、井溝、保安林、公衆用道路、公園が含まれる。総面積は、北海道内180市町村の平均の半分弱の広さとなっている。



地目	面積 (㎡)	割合
田	6,829,067	3.46%
畑	22,411,978	11.37%
宅地	2,291,252	1.16%
鉱泉地	102	0.00%
池・沼	47,763	0.02%
山林	101,934,955	51.71%
牧場	923,067	0.47%
原野	40,827,894	20.71%
雑種地	3,715,239	1.88%
その他	18,148,683	9.21%
総面積	197,130,000	100.00%
北海道の市町村の平均	436,000,000	

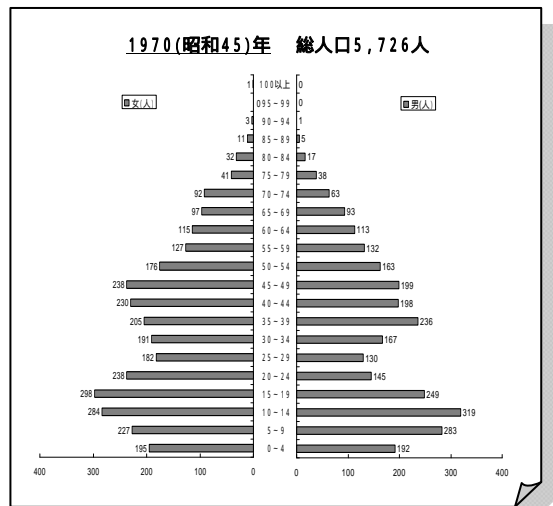
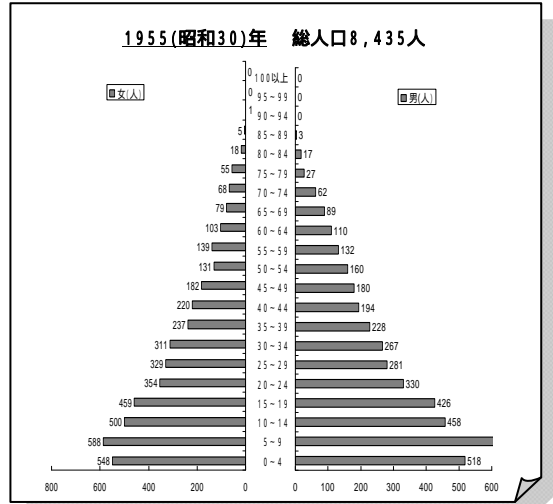
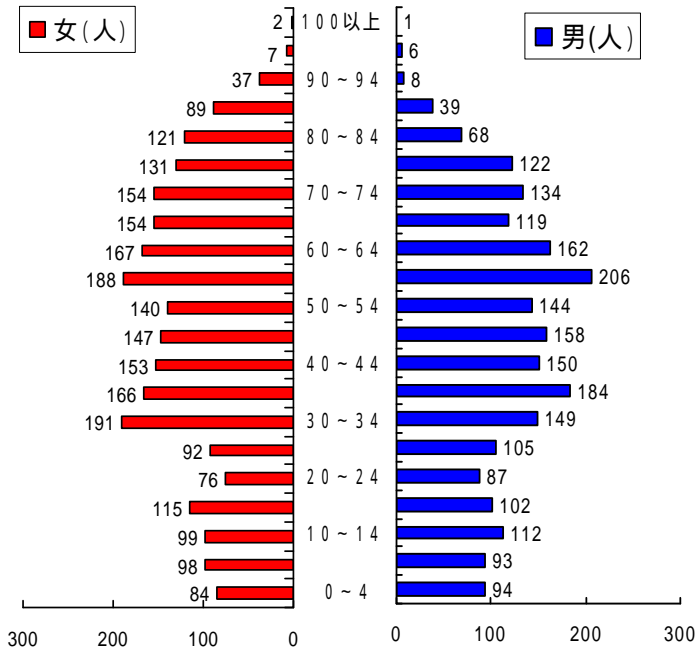
地目別面積比率 (平成20年度固定資産概要調書)



ニセコ町の人口と産業構造

年齢別男女別人口 (平成21年3月31日現在住民基本台帳)

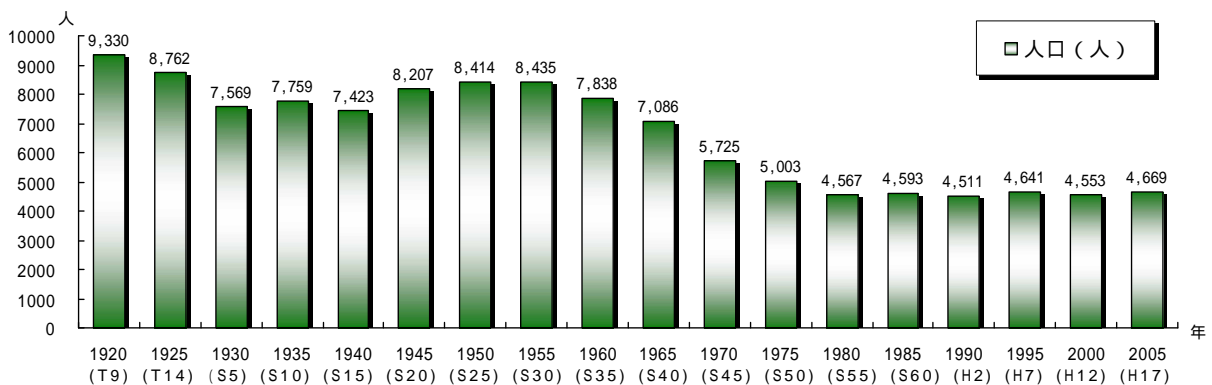
男2,243人、女2,411人、総人口4,654人で昨年同時期と同数。65歳以上の高齢者比率は25.6%であり、今後も少子高齢化が進むと思われる。国勢調査によると、2005年10月1日現在の全国、北海道の高齢者比率は、それぞれ20.1%、21.4%である。



右のグラフは、戦後最も人口が多かった頃(1955年)と、人口減少が最も激しかった頃(1970年)の人口ピラミッドである。
3つのグラフを年代ごとに見ると、「ピラミッド型」から「釣り鐘型」に形が変わっていく様子が見える。すなわち、少子高齢化社会への変化が目で見ることが出来る。

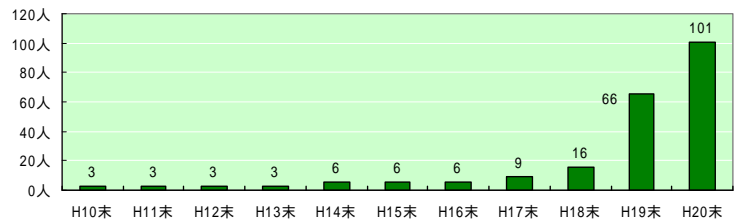
国勢調査人口の推移

1920年より1940年までは減少したが、戦後一時増加する。しかし、全国的に過疎化減少が顕著化し始めた1960年頃から再び減少を始め、1980年には1920年の半分以下まで落ち込んだ。以降、多少の増減はあるものの、現在まで横ばい状態が続いている。



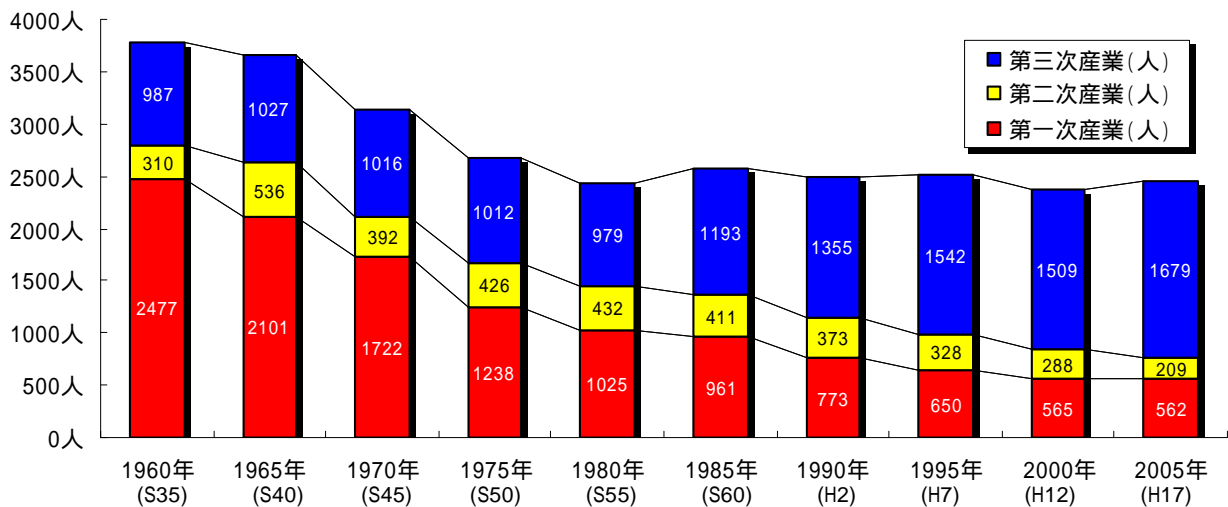
外国人登録者数の推移 (各年度末住民基本台帳)

ここ10年での外国人登録者数は10倍以上に達し、国際的にもセコの注目度が高まっていることが覗える。

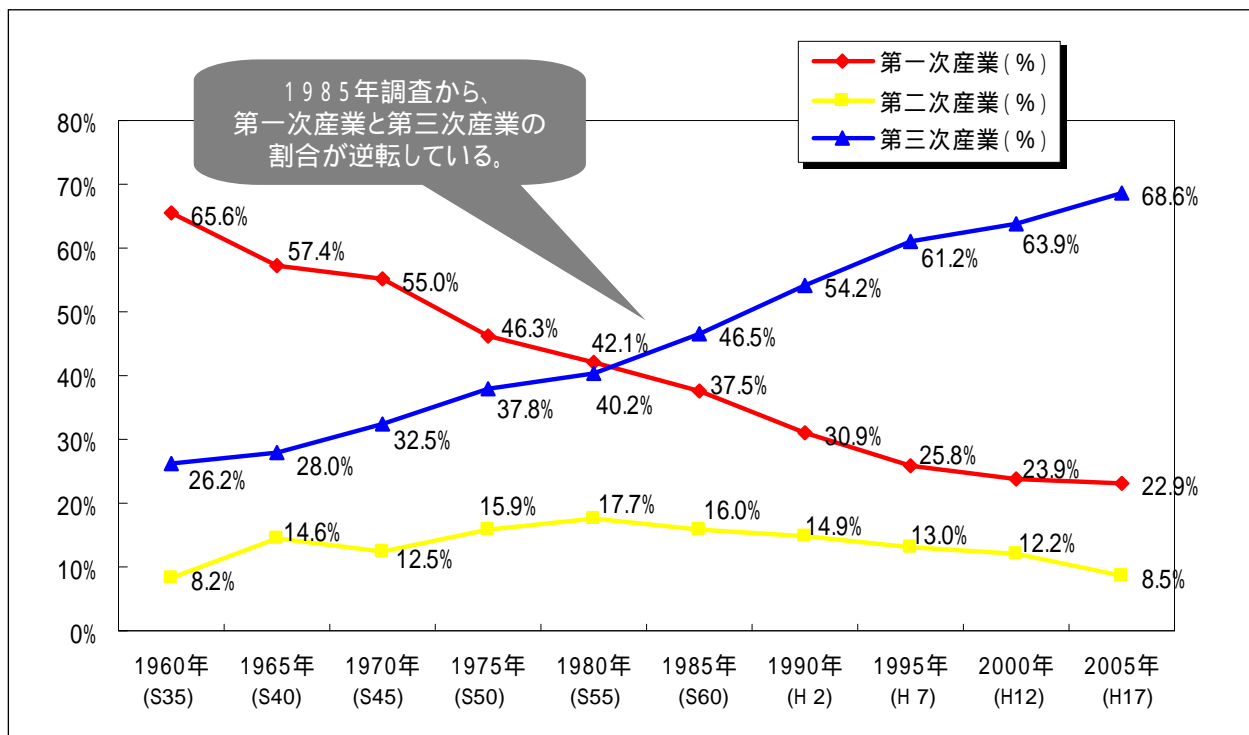


産業別就業人口の推移 (国勢調査)

農業を中心とする第一次産業は年々減少している。それに対して1980年まで横ばいであった第三次産業が1985年から増え始め、1990年には全就業人口の60%以上を占めるようになった。

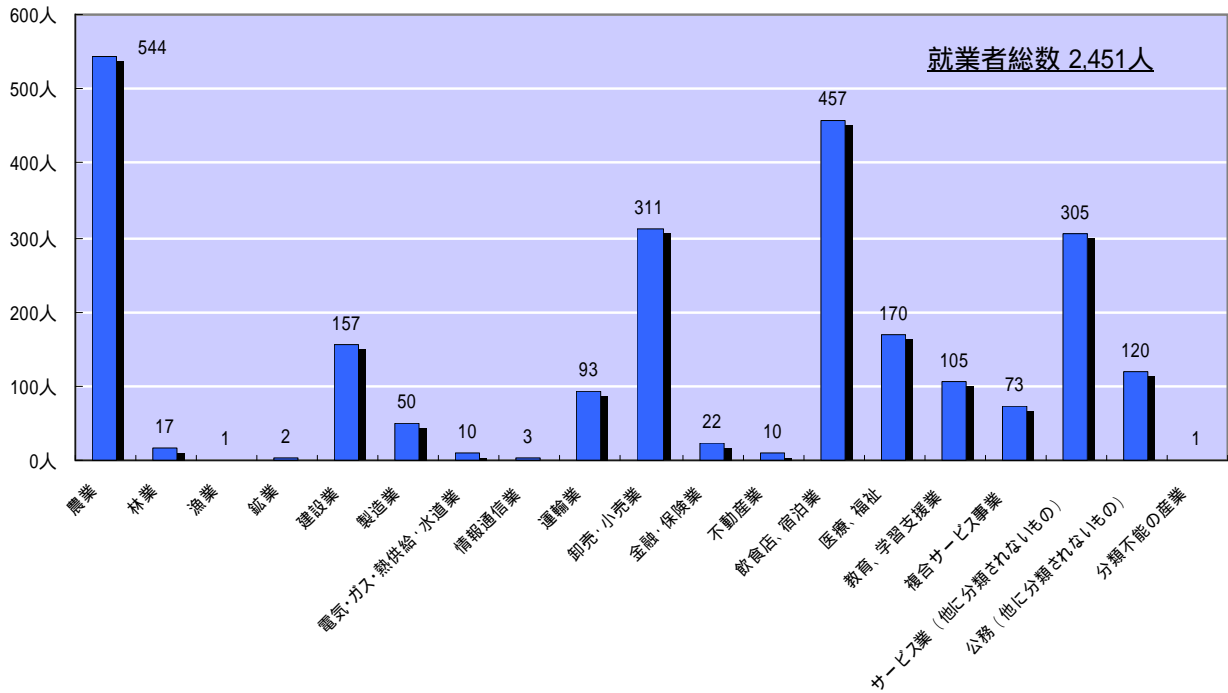


産業別就業人口構成比率の推移 (国勢調査)



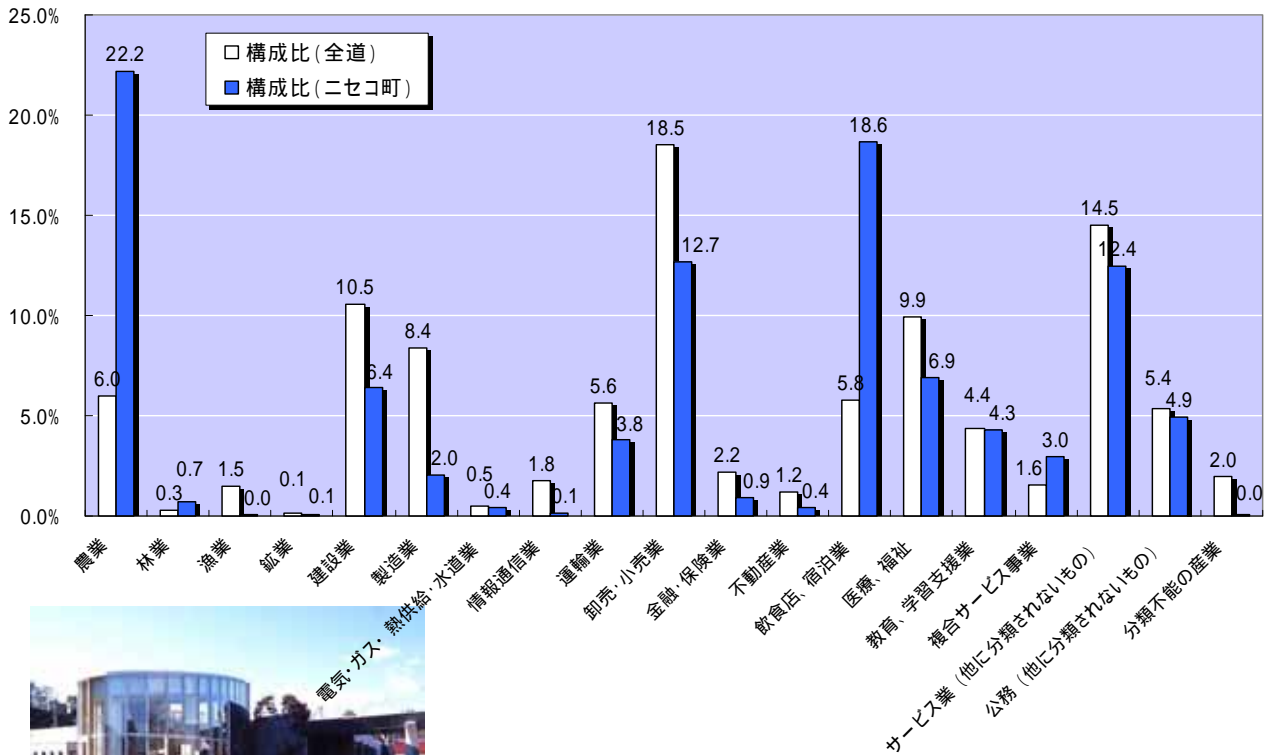
産業別就業人口 (2005年国勢調査)

就業人口でみると、農業、次いでサービス業が多くを占めている。



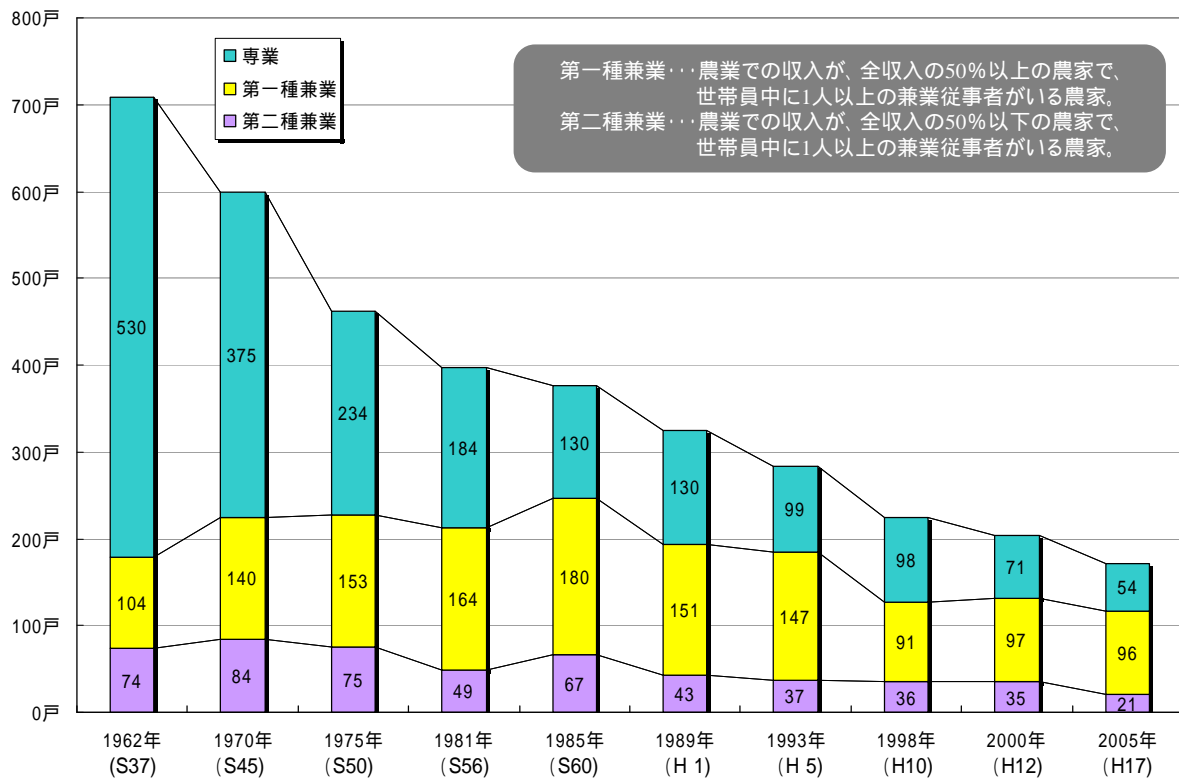
産業別就業人口比率 (2005年国勢調査)

北海道全体の数値と比較すると、ニセコ町はサービス業と農業の比率が高く、製造業と商業の比率が低いことがわかる。上のグラフからもわかるが、ニセコ町の実業人口面からみた主要産業は農業と、観光を中心としたサービス業の二つである。

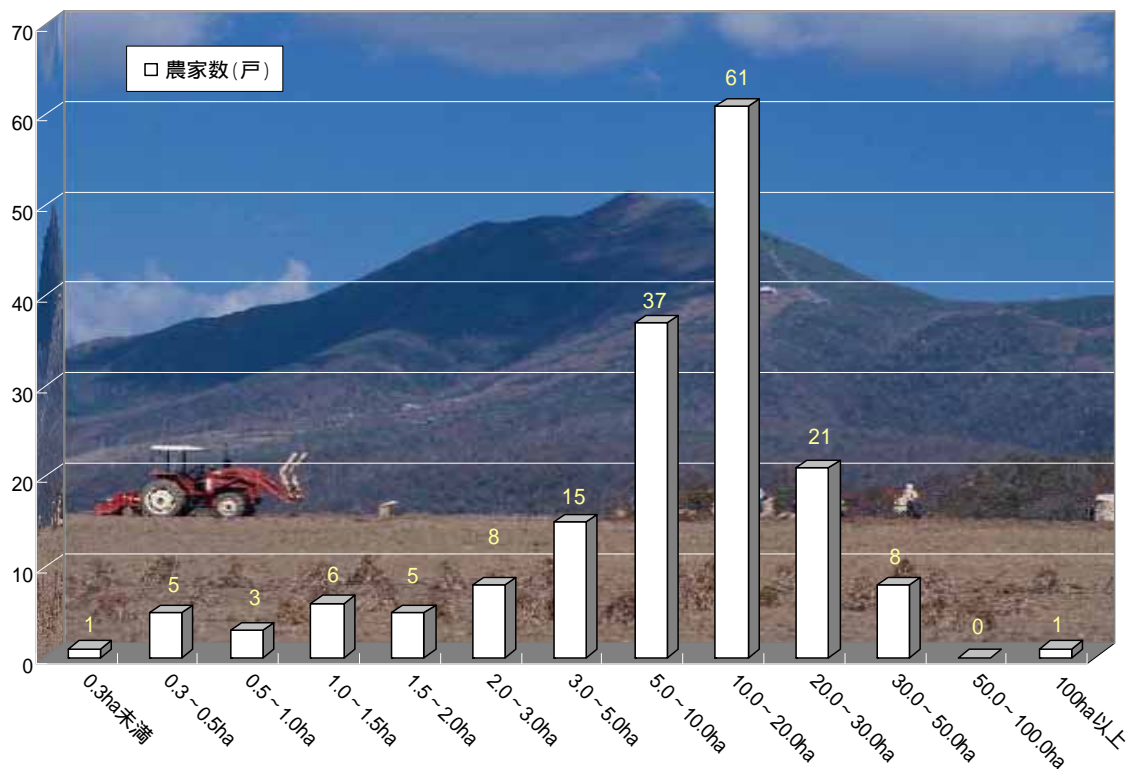


ニセコ町の農業

農家数の推移 (農業基本調査・農業センサス)

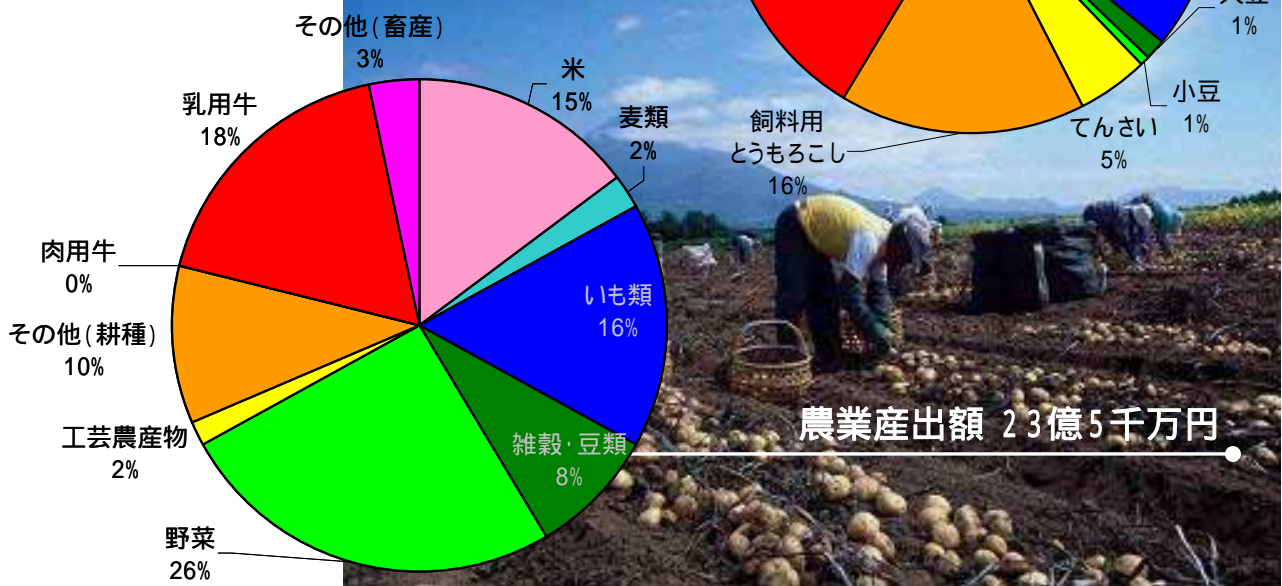
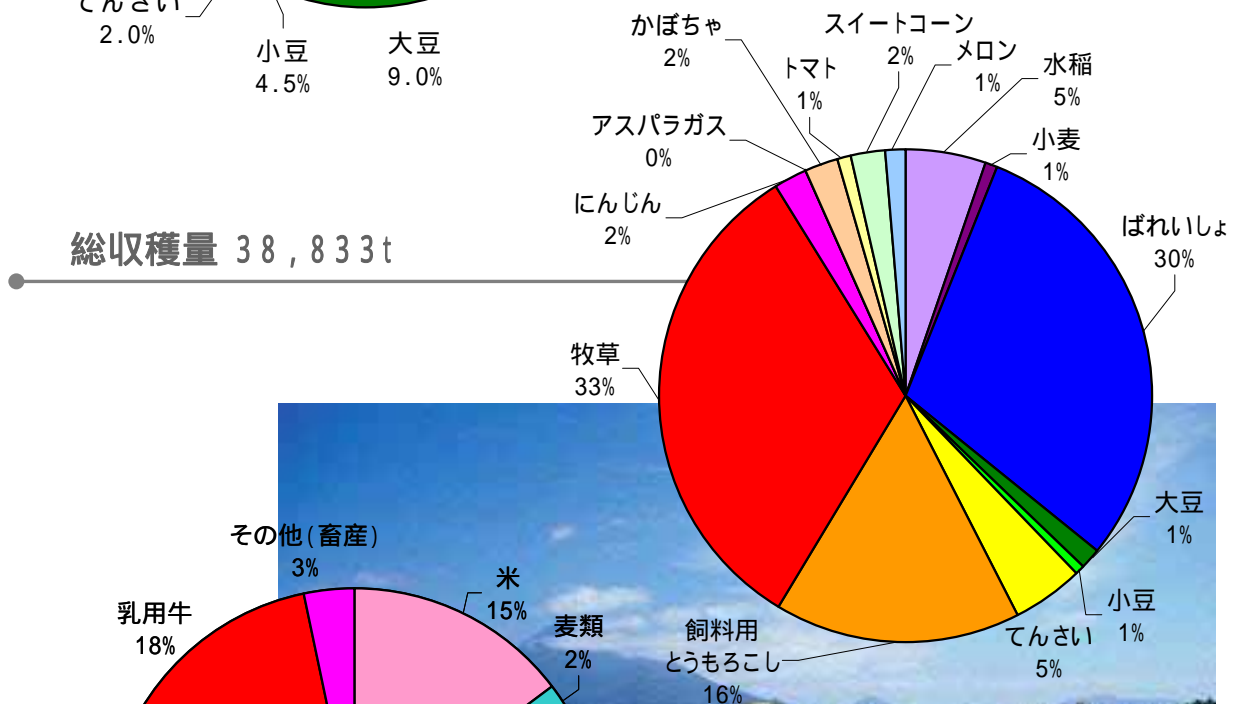
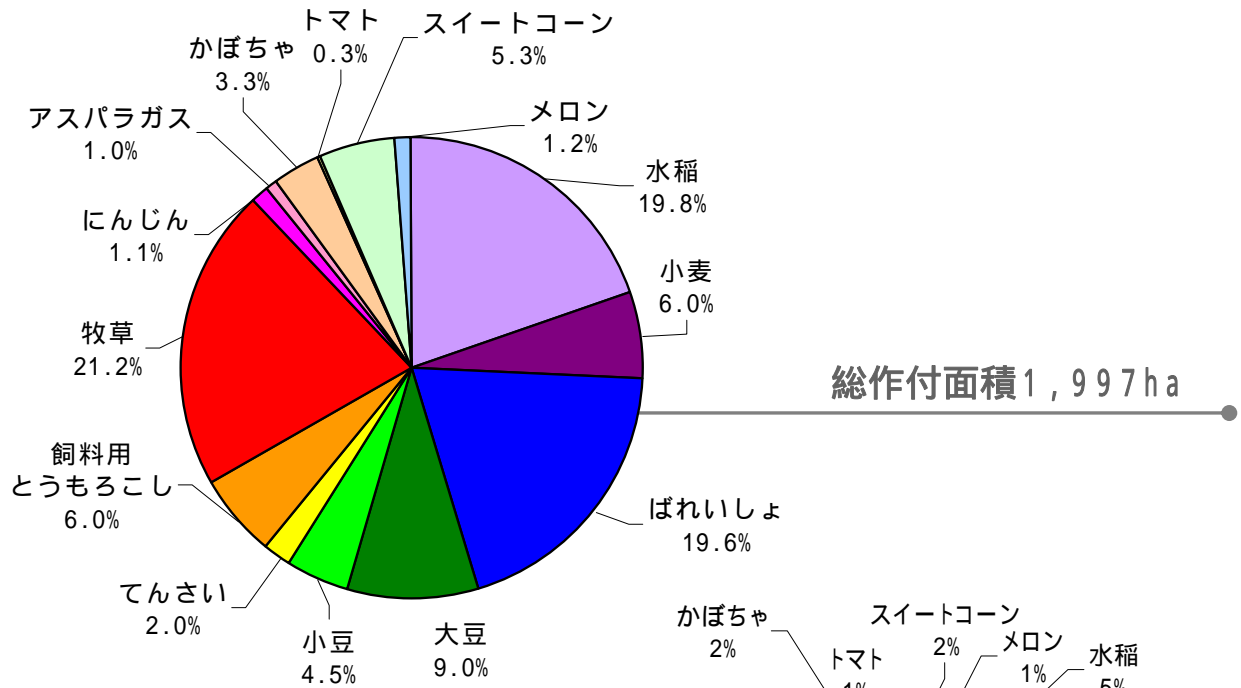


経営耕地規模別農家数 (2005年世界農林業センサス)



主要作物の作付け面積、収穫量、農業産出額

(2005年北海道農林水産統計年報)



ニセコ町の観光

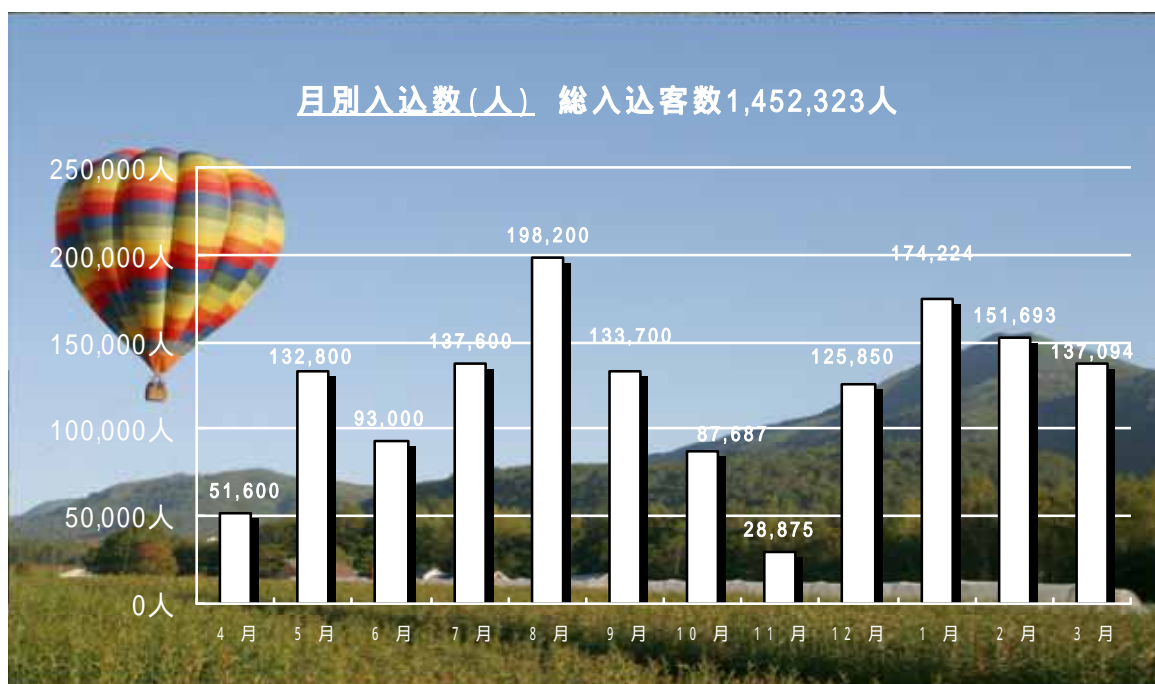
観光客入り込み状況 (平成20年度末ニセコ町商工観光課調べ)

ニセコでの観光客入り込み数の特徴は、1月と8月にピークを持つ二峰型である。スキーシーズンの冬と、様々なアウトドアスポーツを楽しむことができる夏にニセコの魅力を感じる人が多いものと考えられる。札幌から車で2時間という地理的な要因もあり、日帰り客が約7割を占めている。また、以前は3割ほどだった道外客も、最近は道内客とほぼ同じ割合まで増えている。

ニセコ町の宿泊施設数

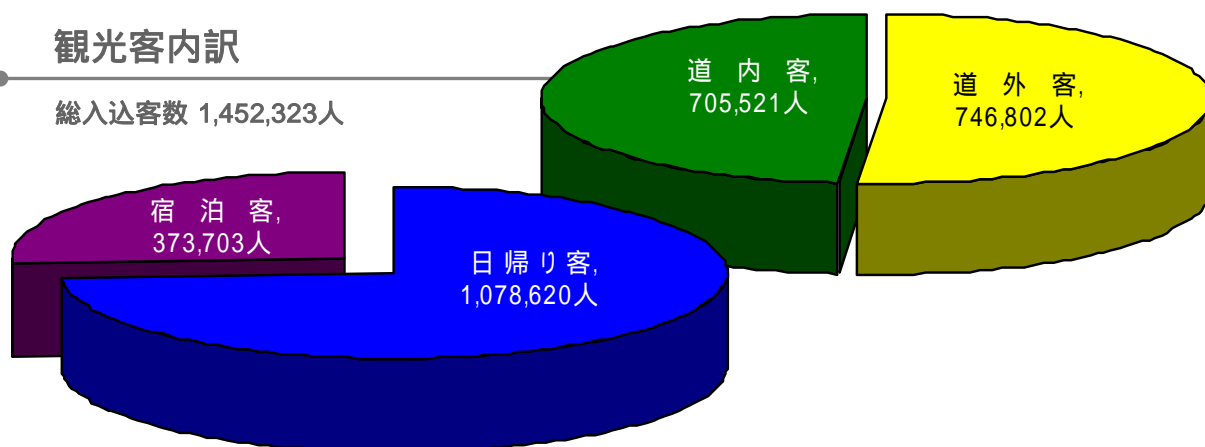
地 区	軒 数	収 容 人 数
昆 布 温 泉	4	441
モ イ ワ 地 区	8	1,054
ア ン ヌ プ リ 地 区	23	1,006
東 山 地 区	22	1,529
ニセコ五色温泉	2	145
ニセコ市街	1	30
近 藤 地 区	1	10
里見・富川・西富地区	4	42
総 数	65	4,257

平成20年3月現在



観光客内訳

総入込客数 1,452,323人



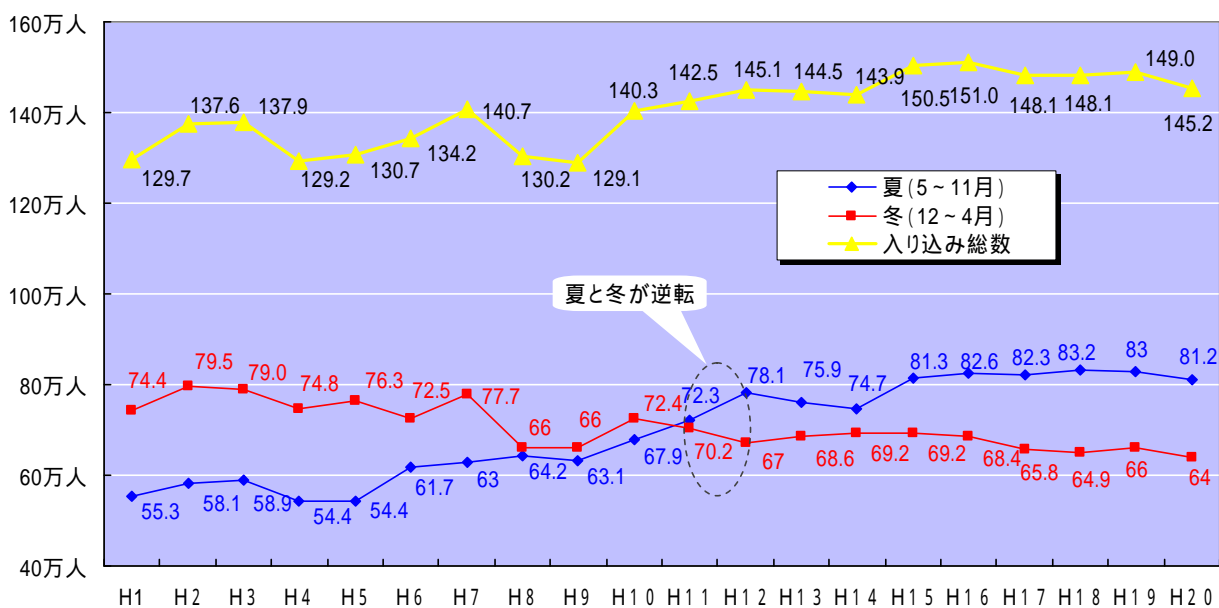
観光客入り込み数の推移 (ニセコ町商工観光課調べ)

ニセコ町の観光客入り込み総数では平成10年からほぼ横ばいか微増傾向にある。

季節で見ると、平成11年から夏と冬の入り込み数が逆転しており、かつてのスキー場中心だったニセコの観光に変化が見られる。

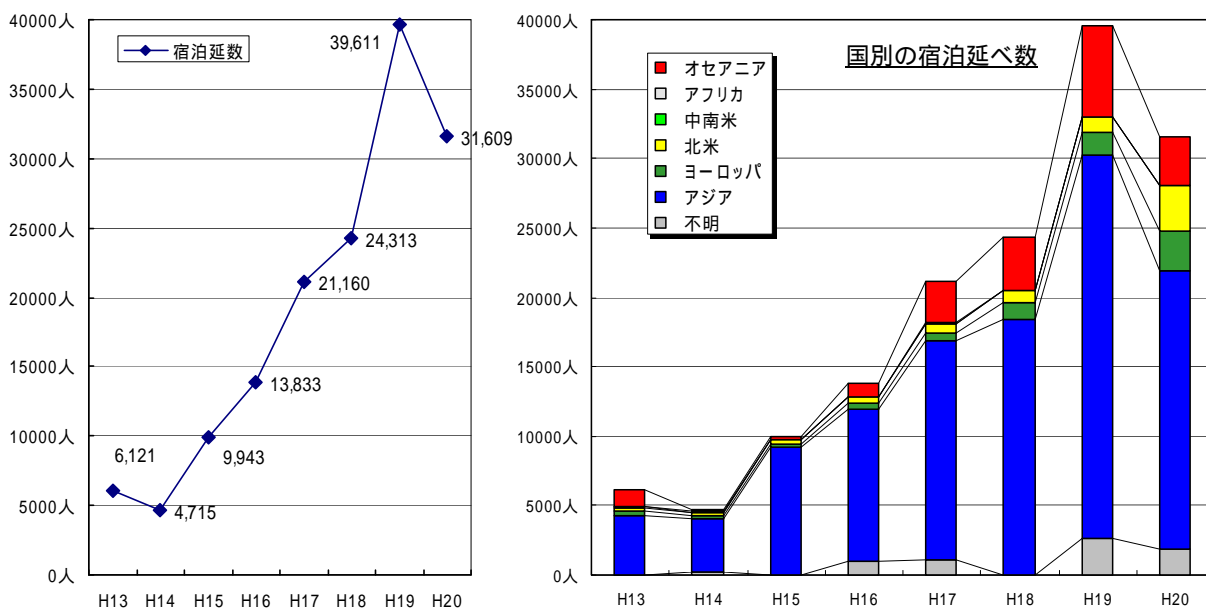


アンヌプリスキー場(左)
尻別川でのラフティング(右)



外国人宿泊客の状況 (ニセコ町商工観光課調べ)

ニセコ町への外国人宿泊客数は、平成14年度を境に急激に増加、19年度には約8倍にも達し、国別の状況を見ると、特にアジア、オセアニアからの来訪者が増加している。しかし、20年度は逆に減少しており、今後の動向が注目される。



ニセコ町の社会基盤

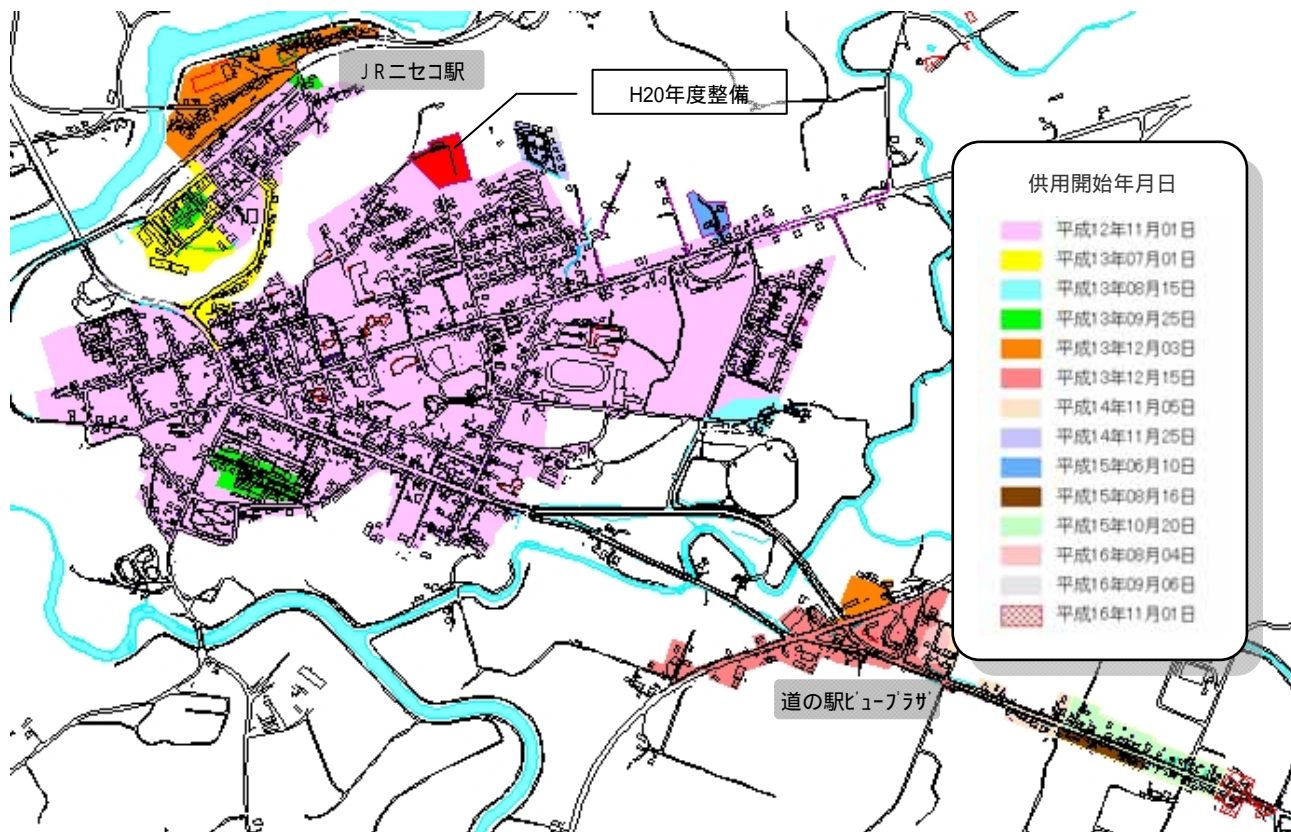
水道施設・給水状況 (ニセコ町上下水道課調べ)

ニセコ町は宿泊施設が多いため、給水人口あたりの給水量が多い。特に宿泊施設が多い地区では、その他の地区と比べると10～60倍もの違いがある。

区 分	平成19年度給水量 (立方メートル)	給水人口 (人)	1人当たり使用量 (立方メートル)	1人1日当たり 使用量(ℓ)
市街地区簡易水道	347,684	2,719	127.9	350.3
曾我地区簡易水道	110,930	527	210.5	576.7
宮田地区簡易水道	29,200	203	143.8	394.1
近藤地区簡易水道	27,867	255	109.3	299.4
ニセコ地区簡易水道	158,047	226	699.3	1916.0
桂地区飲用水供給施設	1,835	22	83.4	228.5
ニセコ温泉郷地区飲用水供給施設	2,690	2	1345.0	3,684.9
いこいの村地区飲用水供給施設	30,363	20	1518.2	4,159.3
福井地区簡易水道	18,053	269	67.1	183.9
合 計	726,669	4,243	171.3	469.2

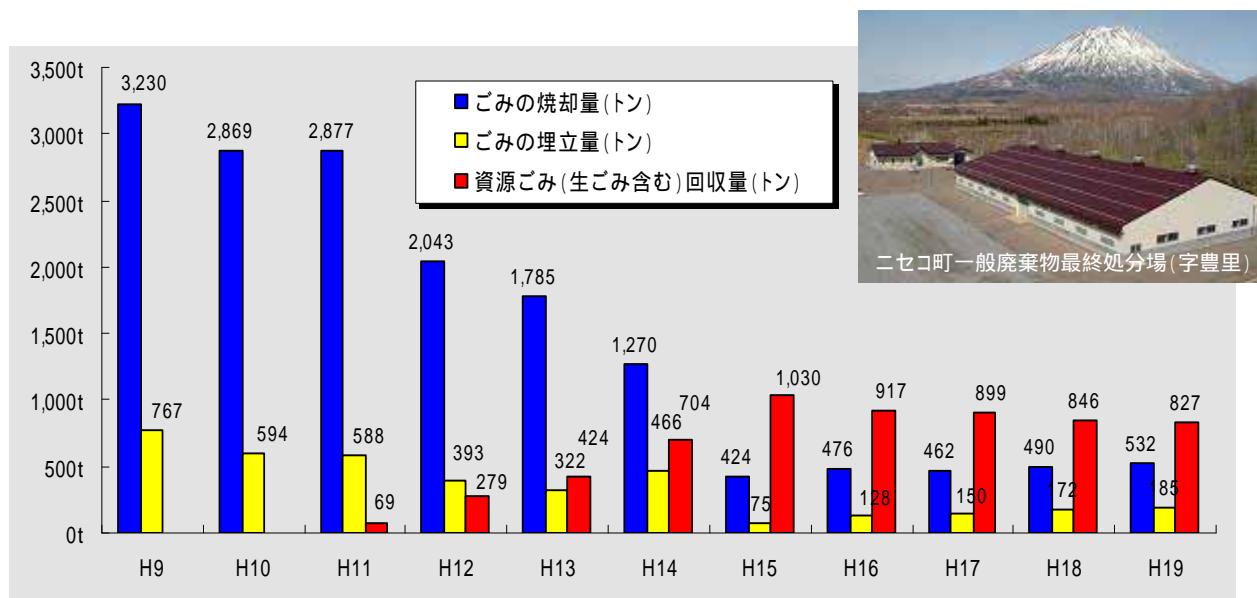
下水道の普及状況 (ニセコ町上下水道課調べ)

ニセコ町の下水道普及率は、平成20年度末で53.0%(人口ベース)となっており、2,477人がニセコ町の下水道を利用しています。供用開始区域は下記の図面のとおりとなっており、計画区域全体で120ha、整備率は93.7%(113.8ha)となっております。



ごみ処理 (ニセコ町町民生活課調べ)

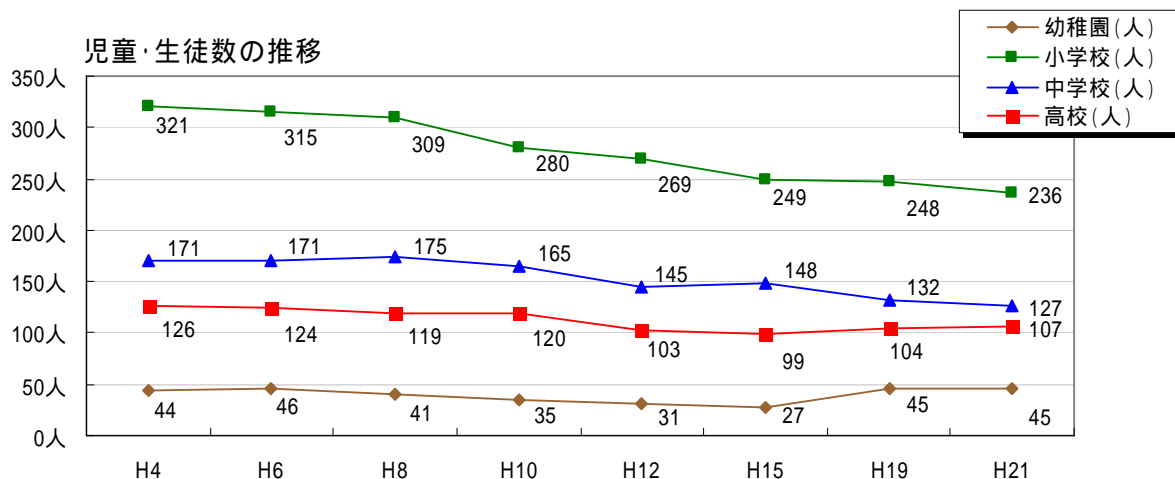
現在、環境やゴミに関する問題は世界中の大きな課題であり、ニセコ町においても数々の取り組みを行なっている。ニセコ町では、平成14年度からごみの有料収集を開始し、同時に細分化した資源ごみの収集を行ない、ごみのリサイクル率向上を図っている。



ニセコ町の教育

学校状況等 (平成21年5月1日学校基本調査、保育所は5月1日現在)

学校名	学級数	生徒・児童総数	生徒・児童数(男)	生徒・児童数(女)	教員数
ニセコ幼稚園	3	45	18	27	6
ニセコ小学校	8	218	115	103	18
近藤小学校	4	18	9	9	7
ニセコ中学校	5	127	66	61	12
ニセコ高等学校	4	107	45	62	12
保育所	6	80	41	39	7



ニセコ町の教育・文化施設

有島武郎記念館



ニセコ町は有島武郎ゆかりの地です。大正6年、「新小説」に発表され、有島文学の文壇での地位を確立した作品「カインの末裔」は、この地を舞台にしたものです。また、代表作品の一つ「生まれ出づる悩み」や、随想「秋」もこの地で書かれたものです。

これまで多くの文学ファンや旅行者に親しまれてきた有島記念館の周辺が、有島文学の里に生まれ変わりました。有島武郎生誕110年を記念して新しく誕生した有島記念公園。2ヘクタールの敷地のなかには「一房の葡萄」、「星座」、「生まれいづる悩み」など、有島武郎の作品にちなんだ花時計などが配置されています。また、有島カルチャーセンター・有島アートギャラリーでは、絵画・等工芸などの個展も開かれており、身近で優れた作品に触れながら有島作品を知り、ゆっくりと味わうことができるユニークな『文学と芸術の散歩道』です。

	有島記念館	有島カルチャーセンター	有島アートギャラリー	有島記念公園
完成年月	昭和52.12	平成1.1	平成7.3	昭和62.11
面積	195.70㎡	426.78㎡	730.56㎡	19,338.98㎡

あそぶっく (ニセコ町学習交流センター)

図書館機能と情報公開に対応した公文書の保管・開示場所の機能を併設。運営は町民のみならずによるNPO法人「あそぶっくの会」(会員数71名)が行う。住民組織が運営を行うことにより、柔軟かつ町民の目線に立った運営と、人件費などのコスト削減につながっている。同時に、社会教育の機能も担い、町民に期待・評価される存在となっている。

また、当施設は旧郵便局舎を改修・増築したものである。既存ストック施設を活用することで、建設費の大幅な削減が可能となった。

施設開設	平成15.3
床面積	551㎡
工事費	1億6,272万円
H18利用者数	44,548人
備考	ハードル法適用



ニセコ町の体育施設

施設名	面積	概要
陸上競技場	8,997 ㎡	1周300m8コース 用具庫
水泳プール	325 ㎡	鉄骨屋根、ビニール張り、7コース(25m×14m) 子供用フロア付き、管理棟(セラミックブロック)
町民運動場	12,796 ㎡	野球用バックネット1張り、夜間照明6基(40kw)
テニスコート	1,600 ㎡	ラケットシステムコート(2面)、フェンス付 水飲み場1ヶ所、夜間照明4基(16kw)
総合体育館	2,556 ㎡	アリーナ1,224㎡、格技室、研修室 トレーニング室、放送室、更衣室
運動公園		野球場1面(17,238㎡・両翼98m、センター120m) 管理棟、ゲートボールコート(2面) 多目的広場、パークゴルフ場(18ホール) 駐車場、あずまや エントランス広場、ロックガーデン、ラベンダー園、芝桜園

ニセコ町の財政(平成19年度決算)

一般会計

歳入	決算額(千円)	構成比	歳出	決算額(千円)	構成比
町税	623,694	18.16%	(款別)		
地方譲与税	71,313	2.08%	議会費	35,264	1.05%
利子割交付金	1,607	0.05%	総務費	880,157	26.26%
配当割・株式譲渡所得等交付金	1,316	0.04%	民生費	309,836	9.24%
地方消費税交付金	47,178	1.37%	衛生費	243,839	7.27%
ゴルフ場利用税交付金	2,992	0.09%	労働費	2,036	0.06%
自動車取得税交付金	21,373	0.62%	農林水産業費	99,651	2.97%
地方特例交付金	1,923	0.06%	商工費	47,467	1.42%
地方交付税	1,835,484	53.45%	土木費	328,617	9.80%
交通安全対策特別交付税	1,210	0.04%	消防費	135,922	4.05%
分担金及び負担金	24,351	0.71%	教育費	383,020	11.43%
使用料及び手数料	143,726	4.19%	災害復旧費	1,953	0.06%
国庫支出金	107,909	3.14%	公債費	884,252	26.38%
道支出金	95,557	2.78%	(主な性質別)		
財産収入	24,482	0.71%	人件費	684,525	20.42%
寄附金	1,735	0.05%	経常的経費	2,678,495	79.91%
繰入金	270	0.01%	投資的経費	298,943	8.92%
繰越金	80,125	2.33%			
諸収入	92,838	2.70%			
町債	254,682	7.42%			
歳入合計	3,433,765		歳出合計	3,352,014	

特別会計

会計	歳出 決算額(千円)
国民健康保険事業	646,098
老人保険事業	543,300
介護保険事業	353,485
簡易水道事業	165,776
公共下水道事業	194,496
農業集落排水事業	11,204
特別会計合計	1,914,359

主要な財政指数

標準財政規模	2,567,663千円
財政力指数	0.253
(連結)実質赤字比率	赤字なし
実質公債費比率	17.8%
将来負担比率	87.9%
資金不足比率	赤字なし
基金残高(全会計)	1,430百万円
地方債残高(全会計)	9,636百万円
ラスパイレス指数	92.7%

ニセコ町の予算、詳しい財政状況については、予算説明書「もっと知りたいことしの仕事」をご覧ください。

ホームページ版 http://www.town.niseko.hokkaido.jp/motto/motto_top.htm

町外にお住まいの方は、(株)ニセコリゾート観光協会にてお買い求めいただけます。

(1冊1,000円となります。)

お申し込み先

ニセコリゾート観光協会(道の駅ニセコビュープラザ内)

〒048-1544 虻田郡ニセコ町字元町77番地10

電話0136-44-2420 ファックス0136-43-2050

Eメール master@niseko-ta.jp

ホームページ <http://www.niseko-ta.jp/shop/kotoshi>

ニセコ町のあゆみ ～ニセコ年表～

年	月	出来事
1895 (明治28)		本町初の移住者、清川孫太、岩上判七ら西富に入地する。
1896 (明治29)	12	松岡善五郎、移民142人を率い入地する。(松岡農場)
1897 (明治30)	5	本町最初の教育施設として近藤農場に簡易教育所できる。
	7	虻田村より分村し真狩村(現在の留寿都村)の区域に入る。
1899 (明治32)	7	有島武が婿山本直良の名義で90万坪の貸下をうける。(有島農場)
1900 (明治33)	4	吉川銀之丞、石狩幌向より小作人4戸と共に ^{有島農場} に入地する。この頃、松岡農場大半開墾に成功し、遠近の規範農場となる。
	9	元町より倶知安まで(13.7km)道路工事着手。
1901 (明治34)		昆布、倶知安間国道工事始まる。
	11	真狩村より分村独立、真狩村字真狩別太の狩太をとり狩太村と名付けられ戸長役場を元町に置く。(初代村長村上元治)
	12	狩太郵便局開設。(局長、深貝謙太郎) 元町と西富に郵便できる。
1902 (明治35)	1	村総代人に佐村義介、吉川銀之丞当選。
	4	元町に劇場狩太座できる。
	10	村医、山崎喜一郎着任。狩太第一尋常小学校(現近藤小学校)開校。生徒60人。尻別川(川北～市街)に渡船できる。人2銭。馬5銭。
1903 (明治36)	4	ルベシベ(宮田)に試作水田約4畝造田される。
	5	倶知安第四尋常小学校附属ニセコアン簡易教育所開設。(曾我小学校前身)
	7	狩太巡査出張所設置、大村栄太郎着任。
1904 (明治37)		松岡陸三、社地700坪を献じ神社奉斎する。(狩太神社の始め)
	5	狩太第二尋常小学校開校。(現宮田小学校)
	10	函樽鉄道開通。(現函館本線、函館～小樽間)
1905 (明治38)	3	狩太村巡査駐在所できる。
	4	戸長役場を新市街に移す。倶知安第四尋常小学校附属藤山特別教育所開設。(藤山小学校前身)
	5	狩太第三尋常小学校開校。(福井小学校)
	12	狩太第四小学校新市街に開校。(現農協所在地、今のニセコ小学校)
1906 (明治39)	4	2級町村制実施される。初代村長、西村数省(村議15名)
	11	ルベシベ(宮田)青年会できる。(会長、梶藤四郎、青年会の始め)
1907 (明治40)	5	富塚九平、製作所を始める。
	8	帝国製麻株式会社狩太工場操業開始。(大正13年工場閉鎖。)
	11	曾我青年会できる。昆布より西富、桂台を経て弁辺村会に至る道路開通。
1908 (明治41)	7	羊蹄山、5日間燃える。
	10	橋本某、名無川にて水車を始める。
1909 (明治42)	5	消防組できる。
1910 (明治43)	3	ニセコアン(ニセコ、曾我)一帯が倶知安村から狩太村に併合される。
	5	元町郵便局ができる。
1911 (明治44)		寿都銀行支店できる。(後の道銀支店)
1913 (大正2)		大凶作
1914 (大正3)	4	有島武郎、佐村農場を買い取り第二有島農場となる。
	7	旧市街で草競馬開催。
1915 (大正4)	4	狩太商工会創立。
	6	忠魂碑建立除幕式。
1917 (大正6)		守屋商店付近に劇場旭座できる。(昭和4年1月焼失) 近藤農場で鉄鉱採掘然別に移出する。(2年間操業)
1918 (大正7)		狩太、留寿都間に乗合馬車。
	3	市街地に電話開通する。
1920 (大正9)	3	狩太村青年団できる。(16支部)
1921 (大正10)	7	王子製紙工業株式会社尻別第一発電所完成。
1922 (大正11)	6	有島寄付の2町歩をグラウンドにする。(現ニセコ小学校グラウンド)
	7	有島武郎、小作人を集会所に集め、450町歩の「農場解放宣言」を行う。
	9	宮田ルベシベ処女会結成。(女子青年団活動の始め)

年	月	出来事
1923 (大正12)		この年から豊里、元町、有島で酪農がはじまる。
1924 (大正13)	8	有島農場解放記念碑建立。
1925 (大正14)	4	弁辺村(現豊浦町)から中昆布、柳の沢、桂の沢一帯を分割、狩太村に合併される。狩太、留寿都間5人乗自動車はしる。北富士自動車会社の前身。(昭和18年道南バスに吸収)
1926 (大正15)	11	第二王子発電所完成。
1927 (昭和2)	2	私立王子第二小学校開校。(昭和16年公立王子小学校となる)
1928 (昭和3)	3	秩父宮殿下ニセコに御来遊。
	11	狩太信用購買販売利用組合創立。(昭和19年1月1日命により解散)
1929 (昭和4)	11	北海道製酪販売連合会狩太工場設立。(雪印乳業株式会社狩太工場の前身)
1931 (昭和6)		大凶作
	12	狩太村立病院開設。
1933 (昭和8)	8	村の紋章告示。
	9	狩太商業組合創立。(昭和34年1月27日解散)
1934 (昭和9)	1	狩太尋常高等小学校全焼する。
1936 (昭和11)	9	秩父宮殿下御来遊。
1937 (昭和12)	4	字地番改正。狩太、真狩間植民軌道運転開始。(昭和25年8月運行中止、28年廃止)
1939 (昭和14)	12	後志生産連狩太孵卵場できる。(昭和40年6月廃止)
1940 (昭和15)		ニセコで今井鉦山鉄鉦の採掘開始。(終戦とともに閉鎖)
	11	北海道電力株式会社比羅夫発電所創業。
1941 (昭和16)	9	株式会社後志澱粉工業所設立。
1943 (昭和18)		狩太、留寿都間道南バス運行される。
	11	農村電灯設備を初めて西山部落に施設する。
1944 (昭和19)	5	狩太製材工場できる。
	10	狩太土管製作所創業。
1946 (昭和21)	5	特別指導村から普通村に昇格する。
	12	農地改革始まる。
1947 (昭和22)	4	桂小学校廃校。
	5	学制改革により狩太、近藤、福井、桂の各中学校開校。
1948 (昭和23)	3	狩太農業協同組合設立認可。狩太農業共済組合設立。
	8	狩太村開拓農業協同組合設立。(昭和45年12月解散)
	10	狩太高等学校開校。(倶知安農業高等学校狩太分校として)
1949 (昭和24)	3	高松宮、三笠宮両殿下ニセコに御来遊。
1950 (昭和25)	4	後志信用金庫狩太支店できる。
	5	羊蹄山が国立公園に指定される。(支笏洞爺国立公園)
	8	「ニセコ」が道立公園に指定される。
	9	町制施行される。(初代町長、鈴木五十治) 開村50周年記念式典を併せて行う。
1951 (昭和26)	7	狩太、倶知安間道南バス運行。
	9	東大、駒井和愛博士一行、滝台、北栄のストーンサークルを発掘調査する。
1954 (昭和29)	7	拓銀狩太支店が道銀支店と名称変わる。(昭和43年11月閉鎖)
	8	天皇、皇后両陛下御来町。(奉迎場狩太小学校校庭、観光ホテルに御二泊)
1955 (昭和30)	2	狩太有線放送開始。
1956 (昭和31)	5	雪印乳業株式会社狩太工場落成。(昭和51年3月閉鎖)
1957 (昭和32)	5	有島農場管理事務所焼失する。
	7	狩太町体育協会できる。
1958 (昭和33)	11	ニセコ昆布温泉、ニセコ五色温泉郷国民保養温泉地に指定される。
1959 (昭和34)	7	狩太町公認グラウンド完成。(1周300m)
1960 (昭和35)	10	国保町立病院新築。(昭和41年3月廃止)
	11	市街地に簡易水道施設布設。狩太町史刊行。
1961 (昭和36)	3	王子小学校、狩太小学校に吸収統合。
1963 (昭和38)	7	ニセコ山系、ニセコ積丹小樽海岸国定公園に指定される。

年	月	出来事
1964 (昭和39)	8	公民館完成。
	10	「狩太町」を「ニセコ町」に町名改称する。
1966 (昭和41)	7	町民体育館完成。
	12	太平洋クラブニセコモイワ国際スキー場開設。 有線放送電話施設開設、通話開始。
1967 (昭和42)	4	町内中学校統合。(近藤、福井、ニセコ各中学校)
	6	役場新庁舎完成。
	7	開基70周年記念式典挙行。
1968 (昭和43)	3	曾我小学校、ニセコ小学校に吸収統合。
	4	駅名、「狩太駅」を「ニセコ駅」に改名する。
	5	町章制定。
1969 (昭和44)	8	統合ニセコ中学校校舎完成。(3ヶ年計画)
1971 (昭和46)	3	過疎地域市町村に指定される。
1972 (昭和47)	2	ニセコ町振興公社設立。(昭和48年7月ニセコ町土地開発公社となる。)
	8	国民保養センター芙蓉荘完成。
	9	町営牧野造成完成。
	10	町立保育所完成。
	11	ニセコアンヌプリ国際スキー場開設。
1973 (昭和48)	11	「町民憲章」及び「ニセコ町の歌」制定。
1974 (昭和49)	9	ニセコ町民センター完成。
1976 (昭和51)	3	ニセコ、蘭越町学校組合解散。(桂中学校廃校)
	9	新消防庁舎完成。
1978 (昭和53)	2	新 有島記念館完成。
	8	ニセコ町、マキノ町姉妹都市提携を結ぶ。
	10	農村情報連絡施設同報無線開局。
1979 (昭和54)	4	町木「しらかば」と決まる。
1980 (昭和55)	2	ニセコ町総合体育館完成。
	11	全天候型テニスコート(2面)完成。
1981 (昭和56)	3	藤山小学校、ニセコ小学校に吸収統合。
	10	開基80周年記念式典、総合体育館落成式挙行。
	11	「ニセコいこいの村」オープン。
1982 (昭和57)	3	ニセコ町史発刊。ニセコ町新総合計画策定。
	12	東山スキー場、東山プリンスホテルオープン。ニセコ小学校新校舎完成。
1983 (昭和58)	6	土づくり10年計画開始。
1984 (昭和59)	2	ポテト共和国独立宣言。
	11	町立ニセコ幼稚園完成。
1985 (昭和60)	3	信州新町と姉妹都市提携を結ぶ。
	7	マキノ、ニセコ駅姉妹駅提携を結ぶ。
	11	ニセコ小学校開校80周年記念式典。
	12	特別養護老人ホーム「ニセコハイツ」完成。
1987 (昭和62)	11	有島記念公園・サフォーク牧場完成。
1988 (昭和63)	2	アンヌプリ地区地熱開発事業により温泉湧出。
	12	スキー列車「ニセコエクスプレス」運行開始。
1989 (平成元)	6	ニセコ町集約牧草地(字黒川)開設。有島カルチャーセンターオープン。
	10	町名改正25周年、町制施行40周年記念式典開催。
1990 (平成2)	1	平成元年度優良町村表彰受賞。
	3	福井小学校閉校。
	5	SL・C62ニセコ号、小樽ニセコ間運行。(平成7年運行中止)
	8	ニセコ町運動公園野球場オープン。
	8	「ニセコ赤坂奴」町無形民族文化財に指定される。



SLニセコ号

年	月	出来事
1991 (平成3)	10	ニセコ町開基90周年記念式典挙行。 町の花にラベンダー、鳥にアカゲラ制定される。
	12	ニセコ高校新校舎完成。ニセコヘリポート完成。
1992 (平成4)	12	オフトーク通信運用開始。近藤小学校新校舎完成。
1994 (平成6)	9	ニセコ町運動公園完成。
	11	ニセコ大橋完成。
	12	望羊団地(8棟72戸)完成。
1995 (平成7)	3	有島アートギャラリー完成。
	4	マイウェアワロード事業着工
	8	市街地区下水道着工。
	10	中央地区地熱開発事業再調査により温泉湧出。
1996 (平成8)	12	曽我森林公園完成。
	1	曽我地区簡易水道完成。
	4	ニセコ綺羅街道街並み整備事業着工。
1997 (平成9)	12	のぞみ団地(2棟20戸)完成。
	3	デイサービスセンター在宅介護支援センター完成。
1998 (平成10)	3	ニセコ医院新築工事完成。
	5	道の駅「ニセコビュープラザ」オープン。
	8	市街地区下水道処理施設着工。
	11	地方自治法施行50周年記念自治大臣表彰受賞。
	2	綺羅団地(2棟20戸)完成。
1999 (平成11)	2	毎日新聞地方自治大賞奨励賞受賞。
	4	ニセコ町情報公開条例及びニセコ町個人情報保護条例施行
2000 (平成12)	2	本通A団地(単身者用、2棟12戸)完成。
	10	市街地区にて下水道が利用可能となる。
	12	本通A団地(1棟16戸)完成。
2001 (平成13)	4	ニセコ町まちづくり基本条例施行。
	6	ニセコ駅前温泉「綺羅乃湯」(きらのゆ)オープン。
	10	開基100年記念式典。
2002 (平成14)	2	道道岩内洞爺線拡幅工事完了。
	4	町内循環バス「ふれあいシャトル」運行開始。
	6	ニセコ花フェスタ綺羅街道開催。
	9	近藤小学校開校100周年記念式典
	10	ゴミ有料化開始。
	12	一般廃棄物最終処分場完成。
2003 (平成15)	12	堆肥センター完成。
	4	町民学習交流センター「あそぶっく」オープン。
	9	倶知安町・ニセコ町合併協議会設置。
2004 (平成16)	11	宮田小学校開校100周年記念式典
	6	福井地区簡易水道利用開始。
2005 (平成17)	9	西富地区で下水道(農業集落排水施設)が利用可能となる。
	12	字曽我・ニセコ・東山地区で光ファイバーによる高速通信サービス開始。
	12	蘭越町・ニセコ町・真狩村・喜茂別町・倶知安町合併協議会解散
2006 (平成18)	2	ニセコ町出身の吉岡大輔選手が、トリノオリンピック・スキーアルペン競技に出場。
	3	宮田小学校閉校
2007 (平成19)	4	ニセコ町幼児センター「きらっと」オープン。
2008 (平成20)	5	町内循環バス「ふれあいシャトル」自転車車外積載運行開始(全国初)
2008 (平成20)	7	北海道洞爺湖サミット開催。
	10	字富士見・本通・中央通・元町・有島・近藤・里見・富川・豊里・羊蹄で光ファイバーによる高速通信サービス開始。
2009 (平成21)	3	アンヌプリ山麓1,206ha(字曽我・ニセコ・東山の一部)に準都市計画区域が指定される。



町内循環バス「ふれあいシャトル」自転車積載

歴史作成中・・・



ふるさと眺望点(さくらんぼの木)



ニセコ町統計資料「数字で見るニセコ」2009年5月末版

発行/ニセコ町 企画課経営企画係

〒048-1595 北海道虻田郡ニセコ町字富士見47番地

TEL 0136-44-2121 FAX 0136-44-3500

公式ウェブサイト <http://www.town.niseko.hokkaido.jp>